

## VI 海産顕花植物（アジモ）について

当 真 武

アジモはシラヒゲウニの飼量になり、またモバとその周辺部はモズクの初期の着生場となりモズク漁場の良否を判断する指標になることが判明した。

アジモについては指定調査研究報告<sup>1) 2)</sup>で報告したがその他にも興味ある知見が得られたので調査した範囲について概略を報告する。

### 1 アジモの種類

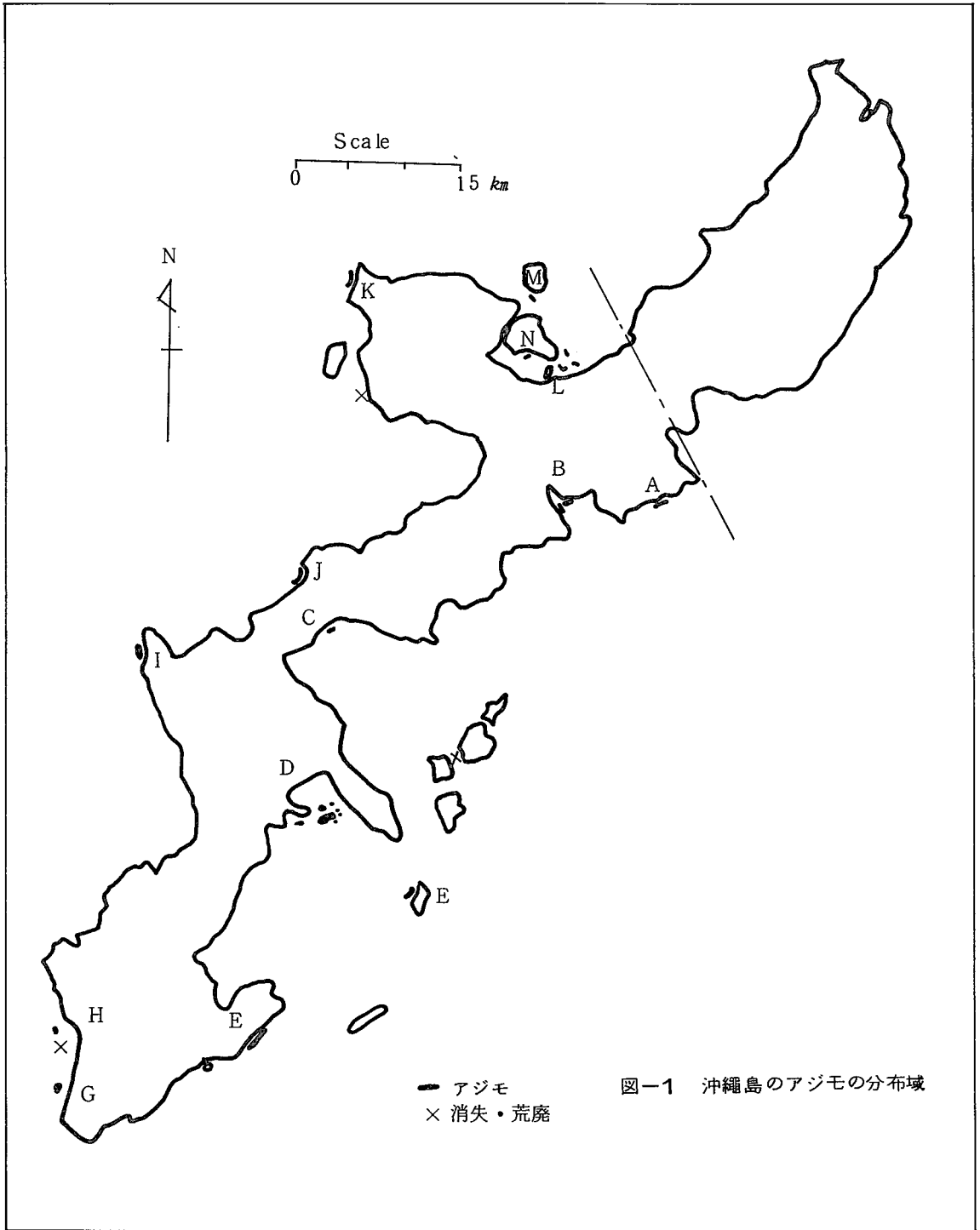
- |   |                     |                                 |
|---|---------------------|---------------------------------|
| ① | リュウキュウスガモ           | <i>Thalassia hemprichii</i>     |
| ② | ベニアマモ               | <i>Cymodocea rotundata</i>      |
| ③ | リュウキュウアマモ           | <i>C. Serrulata</i>             |
| ④ | ボウバアマモ              | <i>Syringodium isoetifolium</i> |
| ⑤ | ウミジグサ               | <i>Halodule uninervis</i>       |
| ⑥ | マツバウミジグサ            | <i>H. Pinifolis</i>             |
| ⑦ | コアマモ                | <i>Zostera japonica</i>         |
| ⑧ | ウミヒルモ               | <i>Halophila ovalis</i>         |
| ⑨ | ウミショウブ <sup>※</sup> | <i>Enhalus acoroides</i>        |

※ 石垣島、西表島に分布

### 脚 注

コアマモの同定は野沢ユリ子氏（鹿児島純心女子短大）にお願いした。記してお礼申し上げる。

2 アジモの分布



沖縄島周辺のアジモ場の分布（図1）とその構成種を表1に示した。

アジモ場は湾口が北ないし北東に向いている地形に少なく、広いリーフ内の波浪の少ない場所に形成されている。

アジモは底質によって生育する種が違う。すなわち、岸よりの腐泥帯にコアマモ、ウミジグサが優占的に生育し、モバの前縁部で比較的波浪のある場所にリュウキウスガモそれよりやや内側にベニアマモが生育する。琉球列島に普通に分布しモバの主要な構成種となるのはリュウキウスガモとベニアマモである。

沖縄島の西海岸一喜屋武岬から備瀬までにはボウバアマモ、リュウキュウアマモは生育していないのに対し、マツバウミジグサとウミヒルモは広い範囲に生育する。しかしながら後者の2種は生育密度が小さくモバとよばれる面積を有することはまれである。リュウキュウアマモの根茎先端部は海底の表面を1~2mはう現象もみられる（嘉陽図1のA）またボウバアマモは採取し空气中に約1時間さらすと葉部に裂傷を生じやすい。コアマモは葉部が約5時間露出しても枯死しない。このように種によって内在する生理的要因も生育分布を制限していると考えられるが、地下茎のほふく深

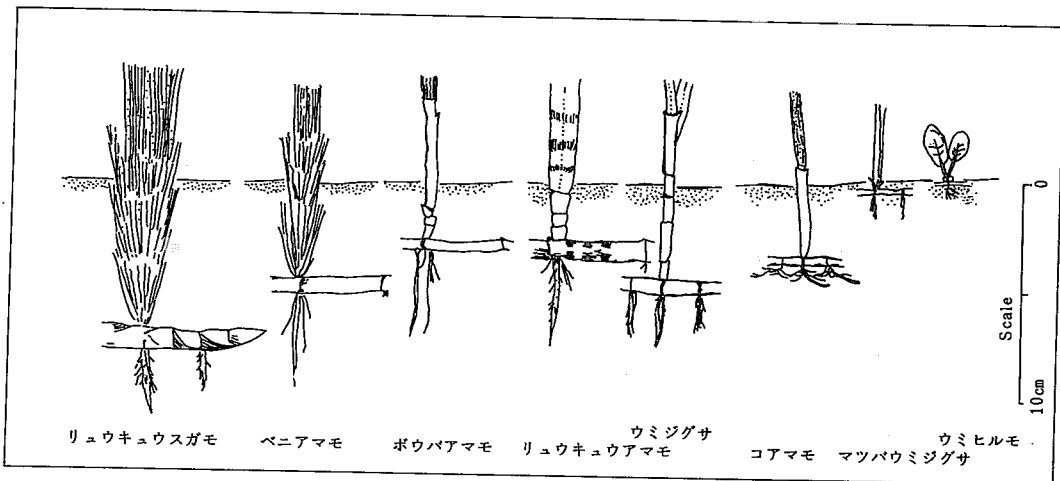


図-3 アジモ類の根茎の匍匐深度

度も漂砂との関係でかなり重要な要因と考えられるようになったので概略図を図3に示した。

水中に生育するアジモ類の開花と結実をみる機会は少なく、開花結実期について不明な点が多いので観察した4種類について表2に示した。リュウキウスガモの結実が特に多く観察されたのは6月であった。十分に熟した実は一旦海面に浮き10時間以内には再び海底へ沈下する。種子から発芽させることは比較的簡単である。野外でも実験室内でも発芽した幼体を観ることができた。モバの面積を拡大する仕方には種子による法、地下茎の伸長による法があるがその他波浪によって地下茎が洗われ、根茎と葉部の一諸に千切れることによって他の場所にはこぼれそこで再び発根し

伸長することも予想できる現象を観察した。

さらに詳しいことは資料の蓄積をまって追って報告したい。

表1 主要アジモ場の構成種

モバの所在地と図1の略号	構成種※							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
名護市嘉陽地先A	●	●	●	●				○
〃 大浦湾B				—			●	
沖縄市泡瀬地先D	○	●		●	○	○		○
勝連村津堅島E				●	○	○		○
知念村山里F	○	●		●				○
糸満市喜屋武漁港地先G	○	●		—				○
読谷村浅波岬I	○	○		—		○	○	○
恩納村屋嘉田J	●	●		—	○	○	○	○
本部町備瀬K	●	●		—		○		○
羽地内海L	○	○	○	○	○	●		○
屋我地湾内N				—		○	●	○
宮古島与那覇湾外地先	●	●	○	●	○	○	○	○
〃 湾内	○						●	○
久米島仲里一奥武島間	●	○				○	●	○

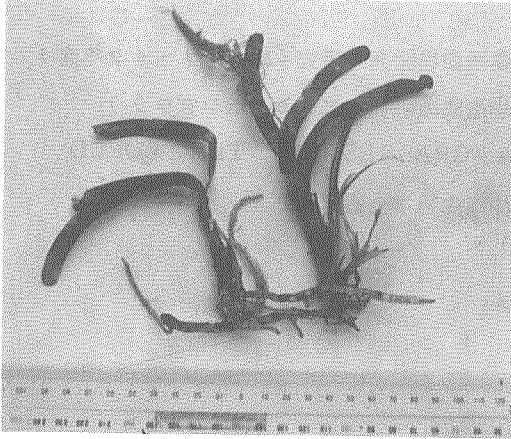
- ※ ① リュウキュウスガモ      ⑤ ウミジグサ      ● 主要構成種  
 ② ベニアマモ              ⑥ マツバウミジグサ  
 ③ リュウキュウアマモ      ⑦ コアマモ  
 ④ ボウバアマモ              ⑧ ウミヒルモ

表2 アジモ4種の開花、結実期

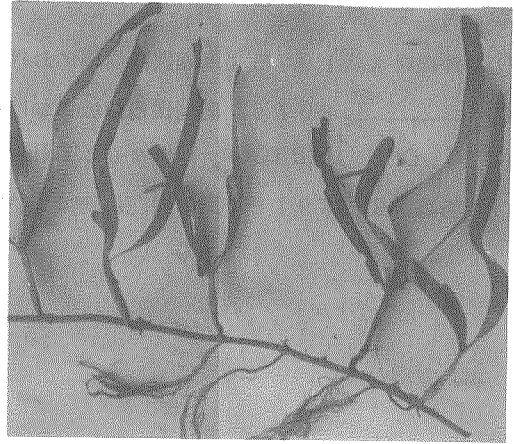
種名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
リュウキュウスガモ		✿		●		●	●						
ボウバアマモ									✿				
ウミジグサ									✿				
マツバウミジグサ											●		

✿開花      ●結実

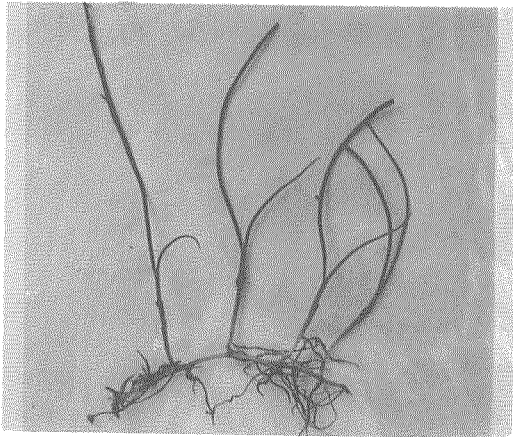
図版-1



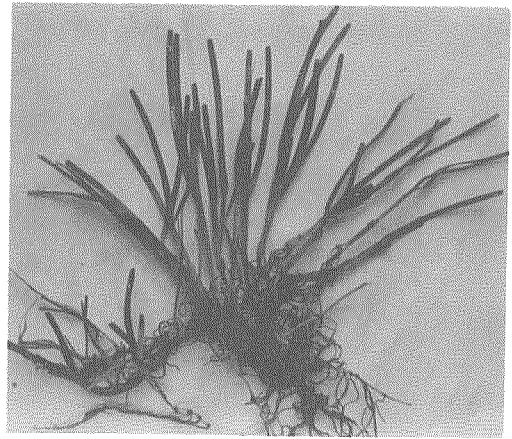
リュウキュウスガモ  
*Thalassia hemprichii*



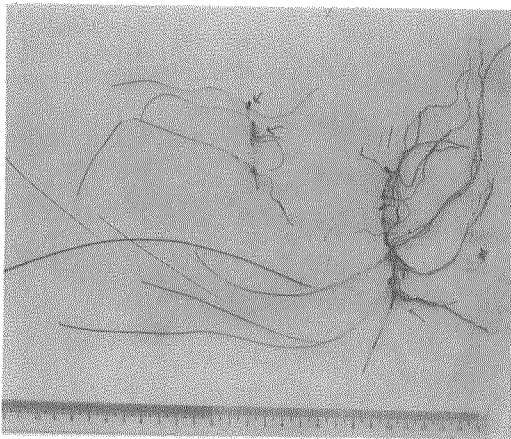
リュウキュウアマモ  
*Cymodocea rotundata*



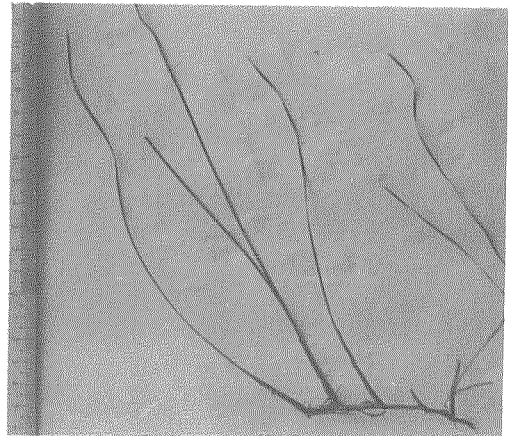
ボウバアマモ  
*Syringodium isoetifolium*



ウミジグサ *Halodule uninervis*



マツバウミジグサ  
*Halodule uninervis*  
← 印は結実部位



コアマモ *Zostera japonica*

参 考 文 献

- ① 沖縄県水試 1975 : 珊瑚礁内海域における増養殖漁場開発の研究 (昭和47~49年度)
- ② \_\_\_\_\_ 1976 : 珊瑚礁内海域における藻場造成の研究 (アジモ、ホンダワラ)
- ③ C. DEN HARTOG、1970 : THE SEA-GRASSES OF THE WORLD
- ④ 当真 武、1976 : 海の顕花植物について、沖縄生物学会通信No.23